

ディプロマ・ポリシー			カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って62単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、短期大学士（健康・スポーツ学）の学位を授与します。</p>			<p>本学科は、学校や企業、地域社会で活躍できる優れたスポーツ指導者を育成するため、最新のスポーツテクノロジーや医科学的理論を踏まえた、適切で正しい指導法を求め、健康や競技に関連した体育・スポーツを科学的・専門的に学ぶことができます。本学科ではディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針で、教育課程を編成します。</p>	<p>本学科は「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p>
1. 知識・理解	1-1	健康・スポーツに関する基礎的・専門的な知識を修得している。	<p>健康・スポーツに関わる指導者に必要な基礎理論と技術を学び、それに基づく技能と演習を学内実習で磨き、最終的には学外の現場実習で応用するという発展的・段階的に学習ができる科目配置を行うとともに、希望する資格取得に結びつくよう「スポーツ教育領域」「健康スポーツ領域」の2つの領域ごとの履修モデルを設定します。 「スポーツ教育領域」 主として中学校保健体育教員を目指す者に必要な、充実した体育授業を実践できるための理論と技術を身につけることができます。</p> <p>「健康スポーツ領域」 主として健康運動指導士や健康運動実践指導者を目指す者に必要な、スポーツ、運動、身体活動を通じた健康支援の理論と技術を身につけることができます。</p> <p>また特別学期における学科プログラムにあつては、教職や各種資格の試験対策講座を開講します。</p> <p>本学科では、以上の教育課程全般において積極的にアクティブラーニングを取り入れて能動的に学修する態度を養い、各科目において「知識・理解」、「技能・表現」、「思考・判断」、さらに「態度・志向性」の枠組みで示した能力・資質について総括的評価を行います。</p>	<p>本学科は、「Sports for All」の時代をリードできる人」を養成するという教育目的を持っています。したがって、健康・スポーツを科学的・専門的に学ぼうとする強い意欲を持ち、次のような現場において活躍・貢献しようとする学生の入学を求めます。</p> <p>①教育および生涯学習における運動指導現場において、健康・スポーツ教育の充実に貢献しようとする者 ②競技スポーツにおけるスポーツ指導・サポート現場において、優れたコーチングとトレーニング指導によって競技力向上に貢献しようとする者 ③地方自治体や企業・民間のスポーツ施設における施設・プログラム管理現場、医療・福祉施設等における運動・フィットネス指導現場において、スポーツ・運動・身体活動を通じた健康支援に貢献しようとする者</p> <p>〈入学時まで身に付けてほしい学力・能力〉 本学科は、競技力の向上や健康で豊かな社会の構築に関わる幅広い指導者養成のため、健康・スポーツを科学的・専門的に探求する多様な学修を展開しています。そこで主体的な勉学の習慣に加えて、大学入学時まで、次のような学力や能力、スポーツの実践力を研ぎ、入学後の学修に臨むことを求めます。</p> <p>1) 知識・技能および思考力・判断力・表現力 ①国語や英語等で学ぶ読解力・構成力・論理的表現力と、そこから得られるコミュニケーション力 ②地理歴史や公民等で学ぶ基礎的な知識と、そこから得られる社会を読み解く力 ③数学や理科等で学ぶ基礎的な知識と、そこから得られる論理的・科学的な思考力 2) 主体性を持って多様な人々と協働する力 ①集団活動における主体性、コミュニケーション力、リーダーシップ 3) 体育やスポーツ分野における実践力 ①各種スポーツの技術・技能、スポーツの実践力とそれに係る体力、スポーツ実践の経験知</p>
	1-2	健康・スポーツに関する幅広い見識を得るとともに、体系的に整理・理解している。		
	1-3	健康・スポーツの実践・指導のための適切で正しい指導法を理解している。		
2. 技能・表現	2-1	健康・スポーツを実践するにあたり、基本的・専門的技能を有している。		
	2-2	知性・情操・徳性の涵養と、施すべき対象へのコミュニケーション能力を身につけている。		
3. 思考・判断	3-1	実践力を向上させるための、論理的・実証的に思考する能力を身につけている。		
	3-2	指導現場においては、成果を得ることが大切であり、そのための問題解決の能力を身につけている		
	3-3	指導現場においては、安全第一が基本であり、そのための状況判断を有している。		
4. 態度・志向性	4-1	学修の価値を正しく評価し、常に向上的態度を保ち続けている。		
	4-2	しっかりとした倫理観に基づき、健康・スポーツ指導者・実践的リーダーとして、強い意欲と意志を持っている。		